

阿蘇市下水道事業 中期経営計画
達成状況中間報告

平成20年5月

1、達成状況の中間報告

少子高齢化、市町村財政の悪化、情報化の進展、環境に対する関心の高まり等社会情勢が大きく変化する中で行政に対する市民ニーズは高度化、多様化の傾向にあります。

このような状況の中、阿蘇市公共下水道事業においても、財政状況は厳しく、限られた経営資源ではありますが、市を流れる河川をはじめ公共水域の水質汚濁が進みつつあり、水質保全・自然環境保全改善が重要な課題となり、汚水処理施設の整備が急務となっている状況であります。

平成18年3月に策定を行った阿蘇市下水道事業中期経営計画(計画期間:平成17年度から平成21年度)に基づき、その経営内容の改善に向け、取り組みを進めてまいりましたので、以下のとおり中間報告します。

2、中期経営計画における事業経営の基本方針

(1) 計画の位置付け

中期経営計画は、下水道事業の阿蘇市集中改革プランとして、平成17年度から21年度までの具体的な取り組み目標を設定し、着実に推進するために策定しました。

(2) 計画策定の期間

開始年度	終了年度
平成17年度	平成21年度

(3) 財政運営の目標

下水道の供用開始区域拡大及びアパートなどの建設による世帯数の増加に伴い水洗化率は上昇傾向にあります。

しかしながら、ホテル等の多大な有収水量の見込まれる施設の減少に伴い、使用料収入の伸びが低迷しています。また、維持管理においても中継ポンプ場の増設に加え浄化センター等の施設・機器の老朽化が進んでいることから計画的な改修も必要となってきました。このように非常に厳しい状況ではありますが維持管理の効率化や機能向上を図りながら水洗化促進強化に努力していきます。

(4) アウトソーシング等民間委託経営手法の導入等についての方針

現在、処理場運転管理業務について民間委託を行っていますが、今後も民間的経営手法の導入を推進する取組としてアウトソーシングの拡大を積極的に行います。

3、事業計画とその達成状況

(1) 整備計画及び主要施策

平成15年度に事業計画変更認可による区域の拡大に伴い、黒川処理分区の整備計画を、また、浄化センターの老朽化に伴う大規模な改築更新を計画しまして補助事業による整備を進めております。

計画に基づき、平成 17 年度から黒川処理分区の整備に着工し、全体計画区域 579ha のうち、平成 19 年度末現在、248.5ha の整備を終え、また、浄化センター改築更新を平成 20 年度に、増設を平成 21 年度から着手予定で、計画に沿って事業を進めている状況であります。

(総事業費)

(単位:千円)

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
計 画	586, 000	600, 000	600, 000	500, 000	500, 000
実 施	586, 000	600, 000	600, 000	—	—

(主要施策)

施策名		時期	内容
黒川処理区整備	計画	平成 17 年度から	元黒川、坊中地区の一部の整備
	実施	同上	北黒川、坊中地区の一部の整備
浄化センター改築	計画	平成 21 年度から	浄化センター機器老朽化に伴う改修工事
	実施	同上	平成 18 年度改築基本設計完了、平成 20 年度実施設計、平成 21 年度改築工事着工予定
成川中継ポンプ場建設	計画	平成 18 年度から	黒川処理分区の整備に伴う中継施設
	実施	同上	平成 18 年度に工事着工、平成 20 年完成予定
不明水調査	計画	平成 18 年度から	管渠の老朽化等により不明水の流入が多く原因調査を行い減少させる
	実施	同上	重要箇所を平成 18 年度から実施

(下水道普及率)

(単位:%)

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
計 画	16.7	17.6	18.1	21.5	23.6
実 施	15.7	16.4	18.0	—	—

(水洗化率及び水洗化人口)

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
計 画 (%)	76.5	79.2	81.2	82.5	83.2
実 施 (%)	77.7	77.8	71.8	—	—
水洗化人口	3,668	3,764	3,828	—	—

(2) 収支計画及び企業債

当初計画では、黒川処理分区の整備に伴う水洗化戸数の増加を見込んでいましたが、工事箇所地の盤不良や建築基準法改正等による成川ポンプ場完成時期の遅れが影響し、次年度以降へずれ込んだ結果となっております。

また、整備区域では、順次接続しておりますが、当初計画時までのデータから有収水量増加の見込みに対しまして、大きな割合を占める旅館、保養所の閉鎖や省エネに伴う機器高性能化等・節水化の影響により、有収水量が減少した結果となっております。

維持コスト削減の取組みを進めているところですが、見込み以上の浄化センター・管渠の老朽化による修理維持費の増加や有収水量の減少により、期待しておりました財源の確保が厳しい状況となり、事業整備に必要な財源を補助金のほか、企業債及び一般会計繰入金で充てた結果となっております。

(有収水量)

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
計 画	682,000	698,000	714,000	730,000	746,000
実 施	669,818	644,481	668,128	—	—

(企業債現在高)

(単位:千円)

元金総額	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
計 画	3,069,259	3,216,059	3,040,364	3,125,944	3,213,309
実 施	3,069,259	3,216,060	3,337,216	—	—

(3) 効果及び効果額

平成 17 年度に着手しました黒川処理分区整備は、平成 19 年度に坊中地区まで幹線管渠がほぼつながり、第 1 段階のインフラが整った状況であります。市全体の処理人口も平成 17 年度 4,718 人でありましたが、平成 19 年度末現在で、5,332 人に達し、水洗化の進んだ地区では、河川等の悪臭やハエ・蚊等の害虫発生を防ぎ、住宅周辺の環境改善が見られるようになっていきます。

(4) 平成 21 年度目標達成に向けての課題と方向性

当初計画では、黒川処理分区への整備拡張と下水道事業整備促進に重点を置き、平成 19 年度までは当初計画どおりに執行してきておりますが、社会情勢による厳しい財政状況の中、使用料金改正や補助事業等の活用方法、整備計画の見直し等を検討し、財政の範囲内での効率・効果的な事業執行計画を進めていく必要が生じております。

4、経営基盤強化への取組みの状況

(1) 経営改革への取組み

整備区域を拡大しながら、維持コストの削減、収納率向上による使用料収入の確保、老朽施設の改築・更新及び不明水削減に取り組んでおります。また、早期効果を図るため、家屋集積地を考慮した管渠整備を計画実施しております。

改築・更新によるコスト削減や使用料増の効果は、整備完了まで効果が見えませんが、早期効果のため引き続き、取り組みを続けます。

また、経営基盤の健全化を図るため、厳しい財政状況を踏まえ、事業実施に伴う企業債の償還計画や高利率企業債の繰上償還等を検討した阿蘇市公共下水道事業の公営企業経営健全化計画を実施します。

	概 要	取 組
浄化センター改築	老朽機器等の改修により維持費の減少	近代化の機器導入による処理コストの削減
使用料収入の確保	黒川処理区の整備に伴う処理区内人口の増加	整備区域の接続推進による有収水量の増加
不明水の削減	不明水の減少による処理槽運転時間の削減	維持費削減

(2) 経営効率化への取組み

人件費の削減と専門的な技術及び知識を必要とする下水道施設維持管理対応のため、民間委託しておりますが、さらに、維持管理の質を保ちながらコスト削減し、また、必要最低限の性能の確保を条件とした包括的な民間委託への取り組みを進めております。

5、経費節減等の取組みの状況

経費節減の一つとしまして、一般会計に準じた管理職手当・特殊勤務手当等、諸手当の調整及び阿蘇市定員適正化計画に沿った人員調整による人件費削減に取り組んでいます。

(下水道職員数)

(単位:人)

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
職員数	7	7	7	(6)	—

※ ()内は、年度当初職員数

6、計画達成状況の結果の公表

(1) 最終報告の公表時期 平成22年5月

(2) 公表方法

本庁・支所の掲示板への掲示及び阿蘇市ホームページへの掲載等により公表